

# 東京2020の延期は 何を遺すのか

IOCのバッハ会長は、東京2020の延期について、「いま全世界の人類が暗いトンネルの中にいるが、オリンピックの聖火をそのトンネルの出口を照らす光にしたかった。東京オリンピックは人類が、いまだかつてない難局を乗り切ったお祝いのお場となる。世界の団結の象徴にしよう」（2020年3月25日）と語った。IOCのオリンピック憲章では、「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てること」としている。バッハ会長の発言は、まさに東京2020を人類の調和のとれた社会の発展に役立たせようとする背景があったと言えるだろう。では、この延期された東京2020は我々に何を遺すことになるのだろうか。史上初めてのオリンピックの延期の遺産（レガシー）について考えてみたい。



久木留 毅 氏

ハイパフォーマンススポーツセンター  
国立スポーツ科学センター長  
専修大学文学部教授

2020年12月17日(木)

14:50～16:30

ZOOMによるビデオ講演



前原 正浩 氏

国際卓球連盟副会長  
日本卓球協会副会長



富川 理充 氏

日本トライアスロン連合  
パラリンピック対策チームリーダー  
専修大学商学部教授

【日 程】令和2年12月17日(木曜日) 14:50～16:30 (4限)

【方 法】zoomによるビデオ講演

【シンポジウム】

情報提供 久木留 毅 氏 (国立スポーツ科学センター長・専修大学文学部教授)

コメンテーター 前原 正浩 氏 (国際卓球連盟副会長、日本卓球協会副会長)

富川 理充 氏 (公益社団法人日本トライアスロン連合パラリンピック対策チームリーダー、専修大学商学部教授)

【参加者】専修大学スポーツ研究所所員、専修大学学生 (文学部スポーツインテリジェンス系ゼミ学生、他)

※ライブはクローズドで実施し、後に編集した映像を公開する

【主 催】専修大学スポーツ研究所 tel 044-911-1032 Mail [sports@isc.senshu-u.ac.jp](mailto:sports@isc.senshu-u.ac.jp)

【協 力】専修大学文学部ジャーナリズム学科

# スポーツ研究所シンポジウム 2020 東京 2020 の延期は何を遺すのか

## 【主旨】

- ◇ 東京での2度目の開催となる第32回オリンピック競技大会（東京2020）は、COVID-19の世界的感染拡大の影響で、オリンピック史上、初めての延期となった（中止は5回）。このことから、東京2020はこれまでの準備を一旦停止し、この1年で再準備をするという、かつてないミッションを課されることになった。大会運営の観点では、今後の悪化が想定される世界規模の経済的影響が、各国の競技支援体制やスポンサーの状況を変えてしまう可能性が考えられる。選手の立場みると、まずは出場権の問題があげられる。出場権の保有を認めるか、国や選手の選考をやり直すのか。各大会が延期または中止されている現状においては、予選や選考をいつ行うのかすら見込みが立たない状況である（2020年5月現在）。他にも、選手や自身の契約、オリンピック以外の大会とのスケジュール調整、大会会場や事前キャンプ地の確保、ボランティアやスタッフの人材調達の問題もある。そもそも本年度まで行ってきた準備だけでなく、選手やスタッフ、観客の新型コロナ感染対策を追加して準備していかなければならない。
- ◇ 国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長は、東京2020の延期について、「いま全世界の人類が暗いトンネルの中にいるが、オリンピックの聖火をそのトンネルの出口を照らす光にしたかった。東京オリンピックは人類が、いまだかつてない難局を乗り切ったお祝いとなる。世界の団結の象徴にしよう」（2020年3月25日）と語った。IOCのオリンピック憲章では、オリンピズムを「肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学」、また「スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するもの」と定め、その目的を「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てること」としている。バッハ会長の発言は、まさに東京2020を人類の調和のとれた社会の発展に役立たせようとする背景があったと言えるだろう。
- ◇ では、この延期された東京2020は我々に何を遺すのだろうか。史上初めてのオリンピックの延期の遺産（レガシー）について考えてみたい。

## 【日程】

令和2年12月17日（木曜日）14:50～16:30（4限）

## 【方法】

- ・ビデオ会議システムを活用する（zoomを使用して実施）

## 【参加者】

- ・情報提供  
久木留 毅 氏（ハイパフォーマンスセンター国立スポーツ科学センター長・専修大学文学部ジャーナリズム学科教授）
- ・コメンテーター  
前原正浩氏（国際卓球連盟副会長、日本卓球協会副会長）  
富川 理充 氏（公益社団法人日本トライアスロン連合パラリンピック対策チームリーダー、専修大学商学部教授）
- ・参加者  
専修大学スポーツ研究所所属、専修大学学生（文学部スポーツ系ゼミ学生、他）、関係者等  
※ライブはクロズドで実施し、後に編集した映像を公開する

## 【スケジュール】

|               |                                                   |
|---------------|---------------------------------------------------|
| 14:45         | Zoom オープン 佐竹所長挨拶、シンポジウム説明                         |
| 14:55 - 15:35 | 久木留氏 情報提供 COVID-19 と東京2020 延期に対するハイパフォーマンスサポート（仮） |
| 15:35 - 15:45 | 前原氏 コメント 卓球界のアクション（仮）                             |
| 15:45 - 15:55 | 富川氏 コメント パラトライアスロンチームのアクション（仮）                    |
| 15:55 - 16:25 | フリーディスカッション COVID-19 と東京2020 延期は何を遺すのか            |
| 16:25         | まとめ（佐藤顧問）                                         |

## 【協力】

- ・専修大学文学部ジャーナリズム学科